

編纂を終えて

白鷹町郷土史研究会が誕生してから、二〇年の歳月が流れたが、郷土史研究会の目標の第一は、合併前の各町村史を纏めることにあった。以来、『十王郷土誌』〔昭和六年三〕、『蚕桑の郷土誌』〔昭和七年四〕、『東根村郷土史』〔同年〕が完成し、既に『荒砥町誌』〔昭和九年二〕、『鮎貝の歴史』上巻が刊行されており、白鷹町史の編纂を希望する声が高まっていた。

条例第三十七号により、白鷹町史編纂委員が委嘱され、第一回の編纂委員会が開催されたのは、昭和四十六年十月のことで、編纂計画が策定され、本篇全一卷は、昭和五十年度を目処に発刊することになった。

資料調査は四十六年十二月から始められ、その成果は『史料目録』第1・2・3集としてまとめられた。出来れば資料集編纂の計画も進められるべきであるが、それは今後に期待したい。

執筆は、編集委員の荒川幸一氏・金田章氏・奥村幸雄氏によってなされたが、三氏の精魂を傾けられた仕事に対し、厚く感謝申し上げたい。刊行年度が一年延長となったが、内容及

び頁数の上で大巾な加増があり、一年の延長はむしろ当然のことと、このように短期間で刊行できる運びとなったことについて、改めて編集委員のご努力に敬意を表すものである。

当初一、〇〇〇頁前後の予定であったが、原稿用紙（四〇〇字詰）で三、〇〇〇枚を越す大冊となり、上巻・下巻と分冊を余儀無くされた。丸五ヶ年の期間を要した『白鷹町史』の編纂は、実に多くの人々の協力を得て完成した。歴史ブームとは言え、この町史を発行するに至った最大の理由は、町民一人一人の胸の内にある、町の歴史を知り、自己の存在を確認し、そして豊かな未来を築く、ということにある。

本書は、我が町の自然から、原始時代・古代・中世・近世・近代・現代・民俗の順で叙述されており、各章に於いてそれぞれ新史料を使用し、興味ある内容になっているものと考えらる。

本書が町民各位に、広く読まれ親しまれることが、我々編纂に携わった者の念願である。

昭和五十二年一月

白鷹町史編纂委員長

渡部 富 栄